平谷の世帯数 184、人口 319（令和 5 年 5 月 1 日）

平谷（ひらだに）

平谷の景観は中心部のおける
ダム湖と軒を連ねる温泉旅館、民宿がつくっています。
十津川随一の商業地域として発展し、村内で最も人口の
多い字です。温泉は元禄年間（1688～1704）に炭焼き職人が発見したとされています。最大の変化は 1962 年（昭和 37）の二津野ダム竣工に合わせて、水没する源泉からの導湯工事が 1963 年に行われたことです。完成式で「十津川温泉」と命名されました。

ダム完成に先立つ 1959 年、国道 168 号が全通、奈良から熊野までの長いバス路線が開通し、小原から五條市まで 4 時間、奈良市まで 5 時間、新宮市まで 3 時間足らずで行けるようになりました。今では五條市まで 1 時間半程で行けますから、スピード化は以後も著しく、隔世の感をぬぐえません。国道の全通と導湯によって、林業中心の村から温泉や熊野古道を軸とする観光の村へと転換するきっかけとなりました。

盆踊りのレパートリーはおよそ 30 曲余りですが、2000 年（平成 12）に村指定の無形文化財となった「餅搗き踊り」が代表的なものといえます。これは、必ずしも盆だけではなく、氏神の遷宮祭や家の棟上げ式のほか、めでたい時に踊られます。

8 月 14 日の本番で踊られるのは 18 曲前後です。平谷の特徴は舞扇のダイナミックな振りにあるといえます。代表的なのは「ヤッチョン」ですが「よいしょこらこら」では扇を交差させながら身体を回す綺麗な動きが加わります。「笠踊り」は編笠をくるくる回しながら踊るものです。

踊り保存会のメンバーは 20 人で、音頭とりの佐古金一さんが第 24 代会長です。平谷は都会的なところがあって、色々な出身の人が多く、なかなかまとまりにくいのが難点です。音頭取りの後継者を育てるのも急務の課題となっています。（中川）

平谷

撮影：佐古金一

平谷

撮影：中川眞

平谷

撮影：佐古金一